一誌一句（受贈誌８・９月号他より）

米田　透　抄出

母の日や糠漬けのなほ及ばざり　（深吉野）　深沢　暁子

居酒屋へ祭崩れがどつと寄る　（多　磨）　関　成美

砂に立ち心遠くへ泳ぎだす　（駒　草）　西山　睦

断崖は神の手すさび灼けに灼け　（たかんな）　吉田千嘉子

介護２の娘就職練雲雀　（　燎　）　波多野　緑

人寄せつけぬ曼珠沙華群るる野は　（　研　）　山本　一歩

水に鯉空には百の鯉のぼり　（松の花）　松尾　隆信

直系は武蔵坊なり麒麟草　（天籟通信）　福本　弘明

桜の実胸筋ゆたかに仁王像　（　森　）　森野　稔

侠客もまじれる父祖の墓洗ふ　（雲の峰）　朝妻　力